

## 10月の銅マーケットレポート及び11月の見通し

橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



## 予想レンジ

LMEセツル	5000-5400ドル	▲	変わらず
建値	630-700円	▲	変わらず
為替	118~121円 (1か月間TTM)	▲	円高

## ■概況

前半は、中国連休明けで警戒感が漂う中、10月のユーロ圏投資家センチメント指数は11.7に低下、予想は11.6だった事などのマイナス材料もあったが、9月開催分の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨がやや景気に配慮した中身と受け止められ緩和的な金融政策が続くとの見方が台頭したこと、ICSGの来年の需給見通しを13万トンの供給不足に見直したことからUP。

10月15日時点で5278ドル(セツル)と月初価格より185ドルUPの前半締めとなった。

後半は、先日発表の中国貿易統計の悪化を受けて金融緩和観測が台頭したこと、中国人民銀行は政策金利を0.25%、預金準備率を0.50%引き下げたこと、グレンコアの銅減産が45万トンまで拡大する旨発表したことなどのプラス材料もあったが、1-9月の中国国有企業利益は前年比8.2%減の1兆7400億元だった事、中国经济減速感に中国株の久々の急落が追い打ちとなり、さらにドル高、原油の大幅続落で売りが売りを呼ぶ展開となったことからDOWN

11月5日現在、後半スタート価格から179ドルDOWNの5165.5ドル。建値67万円のスタートとなった。

## ■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTM) 120.83 → 122.03 (円)

◆自動車生産台数：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-2.6%の85万11777台であった。

◆自動車販売台数：日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比+0.2%の24万889台。

◆新設住宅着工戸数：国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+2.6%の7万7872戸であった。

## ◆貿易関連指標

輸出：財務省貿易統計によると輸出は前年比で電気銅が+8.4%の5万5101t、スクラップが-41.6%の1万5581t。

輸入：輸入は電気銅が前年比-56.4%の1003t、スクラップ-3.2%の8132t

## ■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比-9.5%の6万3110t

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)：銅電線出荷量は、前年比-5.6%の6万400tであった。

## ■概況

【自動車生産】9月の四輪車生産台数は828,817台で、前年同月の851,177台に比べて22,360台・2.6%の減少となり、15ヵ月連続で前年同月を下回った。

9月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。  
乗用車：-702,380台で11,847台・1.7%の減少とな

り、15ヵ月連続のマイナス。このうち普通車は427,436台で4,126台・1.0%の増加、小型四輪車は157,018台で6,278台・4.2%の増加、軽四輪車は117,926台で22,251台・15.9%の減少。

トラック：-113,914台で9,873台・8.0%の減少となり、5ヵ月連続のマイナス。このうち普通車は51,874台で5,215台・9.1%の減少、小型四輪車は28,842台で2,032台・6.6%の減少。軽四輪車は33,198台で2,626台・7.3%の減少。

バス：-12,523台で640台・4.9%の減少となり、3ヵ月連続のマイナス。このうち大型は831台で22台・2.7%の増加、小型は11,692台で662台・5.4%の減少。

9月の国内需要は479,375台で、前年同月比7.6%の減少であった。

(うち乗用車399,760台で前年同月比7.4%の減少、トラック78,226台で同8.6%の減少、バス1,389台で同3.7%の増加。) 輸出は前年同月比2.2%の増加。

## (実績)

【自動車販売】10月の国内自動車販売台数(軽は除く)は24万889台で前年比+0.2%。

1ヵ月ぶりプラス。内：乗用車、0%・貨物、+1.1%・バス、+8.3%

【住宅着工数】平成27年9月の住宅着工戸数は77,872戸で、前年同月比で2.6%増となった。また、季節調整済年率換算値では90.0万戸(前月比3.3%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で7ヵ月連続の増加となっており、昨年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直しているとみている。

反動減の影響が大きかった持家は、前年同月比で5ヵ月連続の増加となった。住宅着工の先行指標となる展示場への来場者数及び受注が回復基調にあり、着工の増加に繋がっていると考えられる。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)前年同月比では5ヵ月連続の増加(前年同月比2.4%増、季節調整値の

前月比では0.7%減)。

(貸家)前年同月比では5ヵ月連続の増加(前年同月比13.3%増、季節調整値の

前月比では0.2%減)。

(分譲住宅)前年同月比では2ヵ月ぶりの減少(前年同月比10.1%減、季節調整値

の前月比では9.7%減)。

(分譲マンション)前年同月比では2ヵ月ぶりの減少(前年同月比22.4%減)。

(分譲一戸建住宅)前年同月比では2ヵ月連続の増加(前年同月比1.0%増)

## (つづき)

## 【伸銅品生産】

伸銅品生産 前年比-9.5%の6万3110 t 7カ月連続マイナス

内需 5万2731 t -7.8% 11カ月連続マイナス

輸出 1万379 t -17.1% 6カ月連続マイナス

銅条 2万730 t -8.4% 5カ月連続マイナス

黄銅棒1万4424 t -2.7% 14カ月連続マイナス

7か月連続マイナス 昭和52年9月以来の低水準。

## 【銅電線出荷量】

前年比-5.6%の6万400 t

うち 国内 -4.5% 輸出が -30.6%。

通信 +2.1%、電力 +7.5% 電気機械 -10.1%

自動車 -4.3%

建設電販-4.1% その他内需-5.8%

【輸出】電気銅輸出が前年比+8.4%の5万5101 t。銅

スクラップは-41.6%の1万5581 t。

【輸入】電気銅が-56.3%の1003 t。スクラップ

は-3.2%の8132 t。

## 【見通し】

・自動車は生産が前月に続き大減少の-2.6%。10月の国内販売台数が前年比+0.2%

生産が15カ月連続マイナス、販売が1カ月ぶりプラス。

生産が1年間以上前年割れとなる中、販売の方が1カ月ぶりに再びプラスに。

今後販売のプラスが続くか注視が必要。

・平成27年9月の住宅着工戸数は77,872戸で、前年同月比で2.6%増となった。また、季節調整済年率換算値では90.0万戸(前月比3.3%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で7か月連続の増加となっており、昨年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、持ち直しているとみている。

・反動減の影響が大きかった持家は、前年同月比で5か月連続の増加となった。住宅着工の先行指標となる展示場への来場者数及び受注が回復基調にあり、着工の増加に繋がっていると考えられる。今般の経済対策等の効果が住宅着工に表れていると思われる。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・伸銅品 7カ月連続マイナスの前年比-9.5%。昭和52年以来の低水準。

需要の多い銅条が、5カ月連続マイナス。黄銅棒が3

カ月連続1万5千 t 台割れ、輸出も前月に続き減少が続く6カ月連続マイナス。

輸出が6カ月連続マイナスの-17.1パーセント。

伸銅品生産は輸出に支えられてきた面もあり今後の輸出動向注視。

・電線 輸出が4カ月連続二桁減少。期待の建設電販のマイナスを受けて全体として減少

・銅輸出は120-122円(TTM)のレンジ内円安トレンドから地金は増加。

スクラップは内需の発生難を受けて減少した。

・銅輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から大幅減少。スクラップ同様に大幅減少した。

## 【スクラップ需給予想】

流通在庫は 月を通じて建値が安定したものの中国連休明けへ警戒感から過在庫分が放出したのではないかと伸銅品生産の低調。伴う発生薄のトレンドは変わらないうメーカーもさすがに原料不足から需給は引き締まっているのではないかと。

## 【価格・為替予想】

今月は、基本に立ち返って 中国の金融および景気対策問題と米国の利上げ問題に左右される。

中国当局は第13次五か年計画でのGDPを+6.5%とし、中国人民銀行は政策金利を0.25%、預金準備率を0.50%引き下げたことある程度の評価に値する。ただこれだけで年内を乗り切れる可能性は低く、新たな公共事業などの景気対策が期待される。米利上げ時期に関しては、先日の議会証言でFRBイエレン議長が12月の利上げの可能性はあるとコメントした事もあり今後の動向に注目。それらを踏まえた11月の銅価格は、中国当局が景気対策に関してなんらかの前向きなコメントを発し、米国が今月の利上げを行わなかった場合、10月高値の5400ドルを予測。いずれかの場合は5200ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合もう一段安値の5000ドル。

為替は、米FRBの利上げについて新たに12月説が台頭している。中国株の暴落も落ち着き、ECBは追加金融緩和に前向きなことを考えれば利上げの可能性がある。

それらを踏まえ予測は、上値はアメリカが12月の利上げを示唆した場合、ECBが追加禁輸緩和を始める可能性が高まることや新興国からの資金吸い上げそれに伴うドル高の加速判断から大幅円高の118円台を予測。下値は利上げを行わなかった場合ほぼ現状と変化なしとの判断から121円台。

銅建値に関しては630-700円程度と予測している。

新 断  
新ダイ  
高価買取します。

(株)エイワ産業

〒577-0536 東大阪市渋川町2-2-2

☎ 06-7891-8180

FAX 06-7891-8170

鉛屑・半田屑

雨滝商事株式会社

広陵リサイクルセンター

代表取締役 雨滝 卓

奈良県北葛城郡広陵町大字三吉27-1

TEL/FAX (0746)60-1613 携帯 090-2115-4918

高価買取ります